

ちえーずーていんばーでー

令和元年 12月 22日

vol.33

ヤンゴン日本人学校

武山 公之

ミャンマーのおいしいもの

みなさんこんにちは。年末も迫り、いよいよ2019年も終わりですね。年末に向けて、実は進路業務が大変なことになっていました。うちの日本人学校に通う生徒は、1月上旬から高校の願書受付が始まり、1月中旬～2月中旬にかけての受験生が多いです。日本に受験に行く際に移動距離もそこそこあり(直行便で8時間以上)、そして日本は冬ということで飛行機のダイヤも安定しないことなども鑑み、2学期中に出願関係書類を渡す家庭が多いのです。今年度に関しては5軒、のべ22通の出願書類を作成しました。数的には少ないと思われるかもしれません。ですが、1校ごとにフォーマットが違うので使いまわしきかない。そしてなかにはこのご時世に手書きの調査書(有名私立校のように、入学関係書類を現金販売している学校に多い)もあり、とても難儀しました。

しかしながら無事それらの書類の発行も終了。あわせて通知表も発行し(ヤンゴン日本人学校は3学期制)、昨日より17日間の冬休みに突入しました。休み初日の昨日は行きつけのマッサージ店でみっちりマッサージしてもらって疲れをいやしました。しかしながら、明日からまた出勤して、進路関係以外に残った残務を処理する日々が始まります。やり残しの無いよう、今年いっぱい一生懸命働きたいと思います。



そんな冬休み初日、十勝地区国際理解研究会のホームページを開いてみると、今年リマ日本人学校に赴任された長屋先生の記事が載っていたので、拝読しました。なるほど「ペルーのおいしいもの」と見てみると…あれ?これミャンマーでもあるじゃん!と思ったのです。それがこちら。ミャンマー語では『ピン フメッ ティー(直訳すると「木に(ピン)なる(フメッ)果物(ティー)」)』といいます。日本で知られているフルーツだとパッションフルーツに極めて近いです。種ごとぱりぱり食べます。非常に酸っぱく「ピタミンCのかたまり」といった感じで、後味が爽快です。ミャンマーではちょうど今が旬なので、風邪予防によく食べるようになっています。そんなことで、今回は長屋先生にならって、私がミャンマーで出会った「おいしいもの(果物編)」をお届けしたいと思います。



ミャンマーで美味しい果物というと…やはり鉄板ですが「マンゴー(こちらの言葉で「タヤッ ティー」右図〇)」でしょうか。マンゴーにもいろいろな種類があり、いわゆる「高級品種」もあります。こちらの言葉で「セイン タロン(「ダイヤモンドのように価値のある」という意味です。)」と言います。確かにその名に恥じぬ果肉のきめ細やかさと芳醇な味わい。時期になると毎日のように食べていました。ちなみに旬は5月下旬～7月中旬です。



次いで感動する美味さなのは「マンゴスチン(ミャンマー語で(ミングッ ティー))」。「果物の女王」の異名は伊達じゃない!口に入れた時の甘酸っぱさ。そして後から広がる芳醇な後味。何個食べても食べ飽きません。旬の時期は6月上旬～8月中旬。ただし、マンゴスチンは悪くなるのもとても早く、2～3日置いておくと果肉が黄色く変色してきます。もしそれを誤って食べてしまうと…ほぼ確実に病院に行くことになってしまうので、注意して食べる必要があります。



しかし、この辺の果物はきっともうみなさんご存知。美味しいのもわかっていると思います。なので、今回ご紹介したいのはなかなかお目にかかるないこちらです!こちらの言葉で「オーザー ティー」、和名は「シャカトウ(釈迦頭)」といいます。このゴツゴツした部分1つ1つに種があり、その周りに白くて甘い果肉がついています。それをスプーンで種ごと掬い取って食べ、種だけスイカのように出します。これが赴任当時から私が病みつきになっている果物です。旬は10月中旬～12月下旬。もう食べ収めの時期です。ミャンマーで食べられなくなるのは残念ですが、またいつかどこかで出会った時、今味わっている感動を思い出すのだと思います。



それでは今月はこの辺で。
みなさん、今年1年本当にありがとうございました。この通信も残り3回ですが、来年もよろしくお願ひいたします。